

光星 中継プレー確認

24日 滋賀学園戦へ練習再開



投手は二枚看板

初戦は先発の土田が制球に苦しみ三回までに3失点し、四回に伴田が救援。6イニングを被安打2、1失点と粘投した。このほか左腕奥間、右腕永田らも控える。昨秋のチーム打率が3割1分の打線は、長打力とミート力を兼ね備えた吉森が軸。初戦で指名打者（DH）として出場した太田はこの冬に急成長した2年生。吉森とともに甲子園経験のある主将藤川と、昨秋の打率5割超の中野は好機での勝負強さが光る。

今大会の初戦は無失策と堅守も持ち味だ。

（棟方好華）

打線は勝負強さ

昨秋の滋賀県大会3位、近畿大会4強の滋賀学園は、2年連続4回目のセンバツ出場。今大会の初戦は21世紀枠の長崎西と対戦。目まぐるしいシーソーゲームの中、同点で迎えた五回、3番吉森の右越えの適時三塁打で勝ち越し、5-4で競り勝った。

投手はエースの左腕土田、右腕伴田の二枚看板。土田は伸びのある130キロ台中盤の直球を軸に、武器のカーブで緩急をつけて打たせて取る。伴田はスライダーやチェンジアップを駆使し、完投能力も高い。

滋賀学園 戦力分析